

マルコの福音書 第2章 16節

「パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちといっしょに食事をしておられるのを見て、イエスの弟子たちにこう言った。『なぜ、あの人は取税人や罪人たちといっしょに食事をするのですか。』」

なぜ、の問い掛けがイエスの弟子たちに鋭く突き刺さる。厳しい非難をおびた問い掛けである。弟子たちに問いかけてはいるが、目的はイエスご自身の振る舞いに対する許せない思いのこもった問いである。直接イエスご自身に問えない何かがあっただろう。だから、弟子たちに問うのである。弟子たちには答えようがない。彼らは、道路傍で、水辺で、生活現場でイエス様に呼ばれ弟子とされた者たちである。彼らに問うのは、エルサレムで指導的役割を果たしている学識ある者たちである。とても答えきれないと戸惑うしかなかったのであろう。その会話を聞いておられたイエス様が学者たちに答えているがここでは答えには触れない。

触れたいのは、なぜ、と問う言葉である。なぜ、取税人や罪人といっしょに食卓につくのか、と問うところを問いたい。学者たちとは異なった、軽蔑される者たちと、なぜ、食卓に着くのかと問うのである。彼らからすれば、招かざる者が、なぜ、いるのかと問うのである。彼らも罪人のひとりであることを棚に上げ、なぜ、と問う人の惨めさがある。

2022年12月27日